

図1-1: 俯瞰図

「ヒト・モノ・コトの多様な流れになびく森のような公園」の創出

「駅前立地を活かした新たな魅力づくり」「子育て支援に目を向けた交流拠点」「市民が安心して暮らせる安全な地域づくり」という3つの基本方針から『にぎわいの創出』『インクルーシブ・パーク』『防災機能の充実』という3つのコンセプトが掲げられています。そこに求められる交流拠点は、すべての子どもが歓迎され、親御さんや高齢者がコミュニティに参加するきっかけにもなる、単なる遊び場だけでなく、人と人をつなぐ場所として機能する可能性を持つ公園です。このような公園を実現するために、私たちは芝生広場を中心として多様な動きを受け入れながらまちに繋がっていく、『えきまえサークルパーク』を提案します。

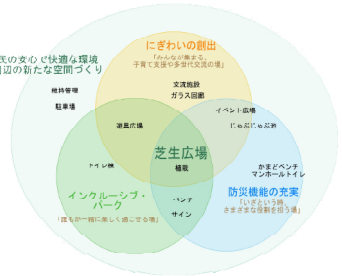


図1-2: 計画コンセプト

明快でわかりやすくまちとつながる動線—インクルーシブ・パーク—

駅前にある、この公園は遊具ゾーンだけでなく、公園全体がインクルーシブな視点で計画した空間です。園路ははじめ敷地内に段差がほとんどなく、車椅子やベビーカーはもちろんのこと、誰もが快適に移動しやすいよう、アクセスビリティに考慮します。また、子どもから大人まで、リラックスできるような心地よい日陰のある芝生広場やちょこっと腰掛けられる場所があったり、あらゆる人が快適に過ごせる公園となります。

1. 誰もが公平にアクセスでき、遊びに参加できる（アクセシビリティ）
2. 誰もが自分の好きな遊びを見つけられる（選択肢がある）
3. 誰もが遊びを通して互いに理解を深められる（インクルージョン）
4. 誰もが安心・安全な環境でのびのびと遊べる（安心・安全）
5. 誰もがワクワクしながら自らの世界を大きく広げられる（楽しい!）



図1-3: イメージパース

まちスケールにおける受け皿のような役割 —にぎわいの創出—

駅前に、賑わいを集約する仕掛けとして、芝生広場を中心に交流施設、遊具広場、イベント広場などの施設を配置します。円形の回廊でつなぐことで、魅力を生み出しながら回遊性を促し、賑わいへと繋いでいきます。

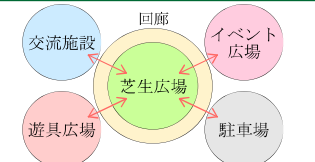


図1-4: 計画建物の機能

日常と非日常の計画—防災機能の充実—

平常時は人々の憩いの場、レクリエーションの場として親しまれながらも防災意識を高めると同時に市民に安心感を与えられる公園として、災害時には、人々の命を守るための防災拠点としての役割を担い、常陸大宮の防災構造を強化するための公園として計画していきます。

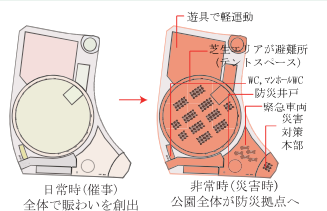


図1-5: 防災機能